

会 議 録

1 会議名

平成 30 年度第 1 回上越市地産地消推進会議

2 議事（公開・非公開の別）

- (1) 上越市地産地消推進の店認定審査（非公開）
- (2) 平成 29 年度 地産地消推進事業報告（公開）
- (3) 平成 30 年度 地産地消推進事業について（公開）
- (4) 意見交換（公開）
- (5) その他（公開）

3 開催日時

平成 30 年 5 月 31 日（木）午後 2 時から午後 3 時 30 分

4 開催場所

上越市市民プラザ 多目的学習室

5 傍聴人の数

0 名

6 非公開の理由

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：湯沢雅彦、勝島勝美、笹川玲子、植村孝弘、小森茂、五十嵐紀文、片田和夫、
井部真理、飯塚よし子
- ・ オブザーバー：古俣亮（新潟県上越地域振興局農林振興部生産振興課主事）
- ・ 事務局：農村振興課 桐木課長、沢田副課長、谷川係長、北山主任
教育総務課 塚田副課長
農政課 太田副課長
農林水産整備課 内田主任

8 発言の内容

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議事

- (1) 上越市地産地消推進の店認定審査（非公開）

(2) 平成 29 年度 地産地消推進事業報告（公開）

勝島委員：上越市地産地消推進の店ガイドブックは、毎年更新するのか。また、地産地消推進の店を辞退した店舗は掲載されないのか。

事務局：ガイドブックは毎年更新予定である。辞退した店舗の掲載はない。

(3) 平成 30 年度 地産地消推進事業について（公開）

勝島委員：昨年度のキャンペーンの内容を見ると、飲食店のキャンペーンになっている。期間を延ばす、市民が手を出しやすいテーマ食材にするなどの工夫が必要ではないか。小売店がキャンペーン用の惣菜を出して、家庭で持ち帰って食べるほうが市民は参加しやすいと思う。

事務局：これまで飲食店を中心としたキャンペーンを行ってきた。小売店も参加すると、従来の方法では難しい。今年度は、小売店も参加できるように考えているが、いい方法が見つからない。

勝島委員：現在の方法だとよそ行きの恰好をして行かないとキャンペーンに参加することができない。キャンペーンの対象商品は小売店が考えること。条件に合えば家で食べられる方法も考えるといいと思う。

事務局：キャンペーンの認知度が低い状況にある。小売店にも参加してもらえれば認知度も上がると思う。

湯沢委員：キャンペーンのターゲットは市民なのか、観光客なのかはつきりしていない。ターゲットが観光客であれば、11 月は観光客が少ないため厳しい。市民をターゲットにするのであれば、11 月はイベントが少ない時期でいいと思う。スーパーなど小売店が参加すれば、市民が対象となる。

また、雪室推進プロジェクトや今年は川上善兵衛生誕 150 年であるが、協力するなどの話は出ているのか。

事務局：特に話は出ていない。

飯塚委員：キャンペーンのアンケートで地元の食材の購入頻度を聞く項目はあるか。

事務局：特にない。アンケートは、キャンペーンの応募用紙と一緒にっており、サイズも小さいため、多くの項目を設定することができない。具体的な消費動向まで調査していない。

飯塚委員：スーパーなどで地元産の購入について、アンケートを取ってはどうか。

事務局：このキャンペーンのアンケートとは別に、毎年食育市民アンケートを実施

している。その中で、食品を購入する際に安全性をどのように判断するかという項目があるのが、上越産の購入頻度までは調査しきれていない。

飯塚委員：ウォッチャー形式での調査はどうか。

事務局：いままでそのような調査を行っていない。

井部委員：近年上越にサメを食べに来る県外の人が多い。サメ食が全国的にブームになっている。キャンペーンのテーマ候補にサメを入れてはどうか。

事務局：サメの旬はいつか。

井部委員：冬が旬になる。小売店での販売もあり、飲食店と合わせて実施できる。サメは、上越で頻繁に獲れないため、郷土料理として紹介してほしい。

片田委員：学校給食で年に2回ほどサメを出している。子どもに骨のないものを提供してほしいということで出している。地場産メギスも給食で使っている。骨があっても骨ごと食べることができ、カルシウムも取れる。こういったものを使ってもらいたい。

植村会長：キャンペーンの期間は、11月で決まりなのか。

事務局：参加店舗から協力をいただくため、7月・8月の開催は難しいが、現時点では決まっていない。テーマ食材に合った期間だと旬のものを食べていただける。これまで飲食店に協力いただいていたため、12月の忘年会シーズンは避けていた。

笹川委員：11月は食材が少ない時期である。

勝島委員：7・8月は底引き網漁が禁漁であり、夏場は魚が傷みやすい。10月から11月の2か月間など期間を伸ばしたらどうか。

湯沢委員：ものづくり振興センターでは大豆をテーマにしている。上越産ナスも最近多く出回っている。

勝島委員：メギスは通年提供できるようにしている。生でなく、すり身や開きなどにして対応している。

笹川委員：小売店に声はかけていないのか。何年前前は小売店も参加していたように思う。

事務局：小売店には声をかけていない。以前スタンプラリーを実施していた。スーパーなどの場合、勤務する人が時間で代わるため、スタッフの中で統一が図られず、うまくいかなかった経緯があり、飲食店に絞ってしまった。

勝島委員：上越市には外の人に「これがおいしい」と言えるものがない。キャンペーンの時だけでなく、長く知ってもらう内容がいいと思う。

湯沢委員：スタンプラリーでなく、クーポンも考えてはどうか。

事務局：皆さんの意見を参考に、キャンペーンの内容を決めていきたい。

(4) 意見交換（公開）

勝島委員：地域の人が誇れるもの、市内のおいしいものを知ってもらうことも重要。ただ、おいしいという判断が難しい。

笹川委員：上越市は海も山も何でもあり、何を宣伝していいか分からなくなる。一つのものに絞ることが難しい。全体を宣伝していくしかない。

東京のメギスは鮮度がよくない。上越のメギスは鮮度がいい。魚や野菜は何品と決めて知名度を上げていくしかない。メジャーでないものを売り出すのは難しい。遠くから来た人に幻魚を説明しなくてはいけない。

湯沢委員：市外の人から見て有名なのが味噌、ワイン、酒。食品をブランド化しても市民や飲食店が使えないようでは意味がない。観光客向けになってしまう。

事務局：上越市にはおいしいものが沢山あり、一つに絞ることが難しい。今後も地産地消に関しご意見があれば事務局にいただきたい。

問合せ先

農林水産部農村振興課

TEL：025-526-5111（内線 1812）

E-mail：nousonshinkou@city.joetsu.lg.jp

その他 別添の会議資料も併せてご覧ください。